

- 和(わ・田中/関せき) → 道斎(どうさい・田中/仲/関、儒者) E 3 1 3 8
 和(わ・岡田) → 雲洞(うんどう・岡田おかだ、里正/詩文) E 1 2 0 4
 和(わ・堀) → 靄潭(げんたん・堀ほり、医者/詩) L 1 8 0 4
 和(わ・松原) → 東臯(とうこう・松原まつばら、儒者/詩) D 3 1 9 0
 和(わ・岡野) → 黄石(こうせき・岡野おかの、藩儒臣/詩人) K 1 9 0 8
 和(わ・山口) → 和(やわら・山口やまぐち、和算家) E 4 5 4 2
 和(わ・広瀬) → 中庵(ちゅうあん・広瀬ひろせ、医者) F 2 8 7 5
 和(わ・桑田) → 立斎(りつさい・桑田くわた、医者/種痘実施) B 4 9 9 7
 和(わ・石原) → 東隄(とうてい・石原いしはら、儒者) G 3 1 6 1
 和(わ・恒遠) → 醒窓(せいそう・恒遠つねとお、儒者/詩) C 2 4 5 0
 和(わ・片山/中村) → 栗園(りつえん・中村/片山、藩儒/執政) B 4 9 5 9
 倭(わ・富樫) → 広蔭(ひろかげ・富樫/井手、商家/国学) 3 7 1 4
- 5301 **和庵**(わあん・手島てしま、名;建、堵庵とあん男) 1747-9145 京の富商近江屋主人;1761家督継嗣、
 心学者;父堵庵・富岡以直門、父を継承し五楽舎・明倫舎主を務める、斎庵の養父、
 「朝倉雑話」「心学上堂忠告辨」/1790「手島和庵先生論語講義」著、「和菴遺稿」
 煨芋(わいじゆ;号) → 性海(しょうかい;道号・霊見;法諱、臨濟僧) Q 2 2 9 4
 煨芋子(わいじゆし) → 行応(ぎょうおう;道号・玄節、臨濟僧) N 1 6 3 5
 煨芋軒(わいじゆけん) → 虚白(きよはく、松堂恵喬、臨濟僧/俳人) D 1 6 5 0
 淮水(わいすい;号) → 詢道(じゆんどう;法諱・伝灯、真宗本願寺派僧) L 2 1 6 4
 隈川漁者(わいせんぎょしゃ) → 春蔭(はるかげ・隈川くまがわ/山口、歌人) G 3 6 1 0
- 5306 **和一**(わいち・杉山すぎやま、重政の長男) 1610-9485 父は伊勢藩主藤堂家家臣、伊勢の検校;幼時失明、
 家督を義弟重之に譲り江戸に出て鍼術;山瀬琢一・入江豊明門、管鍼による杉山流を創始、
 1680將軍家綱に謁し85幕府に出仕/1692幕府総検校;当道式目を改姓、
 江戸本所・京の高倉綾小路に社地を賜る、1692「当道新式目」「瞽官紀談」、「選鍼三要集」、
 「節要集」「療治之大概」著、三島安一の師、
 [和一(;名)の別名/法号]別名;養慶、法号;即明院
 和一(わいち・よしかず?・鈴木/足立) → 茂穂(しげほ・足立あだち/鈴木、国学) N 2 1 0 5
 和一園(わいちえん) → 正明(まさあき・尾崎/源、国学/狂歌) B 4 0 0 7
 矮竹(わいちく・清水) → 櫟洲(れきしゅう・清水、儒/武術/故実) 5 1 7 8
 和一郎(わいちろう・川波) → 和暢(かずのぶ・川波かわなみ、庄屋/国学) U 1 5 3 5
 矮道人(わいどうじん) → 雲樞(うんしゆ;道号・泰禅;法諱、曹洞僧) 1 2 9 4
 隈南(わいなん・杉浦) → 桐村(とうそん・杉浦すぎうら、音曲家/絵師) 3 1 4 3
 淮南堂(わいなんどう) → 菅江(かんこう・朱楽あけら、幕臣/狂歌) 1 5 4 7
 淮南堂(2世わいなんどう) → 倉部行澄(くらべのゆきすみ、酒問屋/狂歌) B 1 7 7 6
 矮梅(わいばい・野呂) → 介石(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) B 1 5 0 9
 煨栗園(わいりつえん) → 常名(つねな・檜垣ひがき/度会、神職/歌) C 2 9 7 7
- 5300 **和尹**(わいん・鷺尾わしお) ? - ? 大阪の俳人;
 1681来山編「大坂八五十韻おおさかはちごじゅういん」入(8人で五十韻;
 和尹と来山・如要・快用・江水・白水・夕扉・正察)
 1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
 [駄賃馬に夜は明けにけり里神楽](難波色紙;61/駄馬を飾り馬子唄歌う;催馬楽に対)
 横川(わうせん・よかわ) → 景三(けいさん・横川わうせん) 1 8 0 4
- 5390 **倭雲**(わうん・森谷もりたに、) 1836-191176 佐渡の二宮にくう神社祠官、国学者、顕千代の父、
 [倭雲(;名)の通称/号]通称;善内/加賀正、号;金雲
 和英(わえい・小沢) → 郷助(ごうすけ・小沢おざわ、儒/兵学者) K 1 9 0 3
 和英(わえい・上田) → 石斎(せきさい・上田うえだ、篆刻家) K 2 4 0 5

- 和易(わえき;号) → 二三治(にそうじ・三升屋、歌舞伎作者) 3 3 0 2
- 5307 **和英**(わえい・岸本きしもと、名;元貞) 1672-1717 46 江戸の俳人:岸本調和門、調和の養子;俳系を嗣ぐ、1702清書所編「相鎚」調和・立志との三吟歌仙入、1708「万句短冊集」編/10「歳旦引附牒」編、1712「空つぶて」(冠楽堂人「さすの神子」の改題新板)編、1715「調和追善句集」編(散佚)、和葉編(1720刊)「これまで草」に辞世吟・伝記入、[和英(;号)の別号]壺枕斎/索々軒、法号;和英院
- 和英(和栄わえい・水谷) → 和英(かずひで・水谷みづたに、歌人) V 1 5 8 4
- 窪盈(わえい;法諱) → 桂潭(けいたん;法諱、真宗僧) G 1 8 3 4
- 5380 **わへ子**(わえこ・ハエ子・市田いちだ) 1814-? 近江神崎郡旭村北町屋の人、歌;長野義言・楓園時子門、市田半十郎の妻;後妻or市田栄子の夫半十郎と代違か?
- 和右衛門(わえもん・松本) → 柳斎(りゅうさい・松本まつもと、国学者/歌) E 4 9 0 3
- 和右衛門(わえもん・一条) → 好道(よしみち・一条いちじょう、国学者・歌) L 4 7 5 5
- 和翁(わおう) → 道闇(どうあん;法諱、天台僧) C 3 1 9 0
- 和翁(わおう・小堀) → 宗中(そうちゅう・小堀こぼり/源、幕臣/茶人) B 2 5 8 6
- 和央(和応わおう・多賀たが) → 一蝶(いちてつ・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8
- 和温(わおん・成島) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/歌人) F 4 9 6 7
- 5303 **和海**(わかい・梅原うめばら、名;貞為さだため/てい) 1669-1728 60歳 京の俳人;宮川松堅門、三千風と親交;互の著作に跋文執筆、1695京の上鳥羽実相寺で松永貞徳の追善会催行;「鳥羽蓮花とばれんげ」編(貞徳追善百韻など/三千風跋)、1690言水「新撰都曲みやこぶり」4句入/1702轍士「花見車」入、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、肥前長崎に没、歌;松堅[倭譚五十人一首]入、[ぼくぼくと百足ひやくそくすぎて一葉ひとはかな](花見車;127/1692林鴻[誹諧京羽二重]入)(ゆっくり通り過ぎる百足むかでの後に桐一葉が落ちる)、[島ありと舟さしよせておどろきぬ遠き浪ちはへだつ霞に]、(倭譚五十人一首;18/孤鳴霞)、[和海(;号)の別号]和海軒貞為/紅風軒/柿園3世(松堅を継嗣)
- 和海(わかい・凌雲亭) → 凌雲亭和海(りょううんていわかい・佐羽さば重久、狂歌) G 4 9 4 1
- 5367 **我家亀楽**(わがいえのきらく) ? - ? 江戸狂歌作者;1787「才蔵集」2首入;[いろいろなにさく朝鮮の種が島鉄砲垣にからむあさがほ]
- 和諧堂(わかいどう:薙髪後) → 立志(2世りゅうし・高井、立宜の弟/俳人) E 4 9 2 7
- 若井時成(わかいときなり) → 時成(ときなり・若井、洒落/滑稽本)
- 5386 **若枝**(わかえ・藤井ふじ、備中浅尾藩士池上五郎兵衛宗昌女) 1829-55 早世 27 歌人、1846頃;備中賀陽郡宮内村の吉備津宮社家藤井高雅(たかまさ/たかつね/1819-63)の後妻
- 若江(わかえ;女房名) → 豊浦(とよら;女房名、藩主妾/歌人) V 3 1 8 7
- 5308 **若雄**(わかお・後藤ごとう) 1802 - 1873 72歳 上州渋川の歌人:木暮賢樹門、書画も嗜む、幕末頃群馬郡箕郷町上善地に移住、新居守村・狩野利房と交流、「篠園和歌集」著、[若雄(;名)の通称/号]通称;要吉/留吉、号;四愛亭/貉翁(わくおう)/篠園(しょうえん)
- 5376 **稚木**(わかき・楫取かとり/伊能) ?-1779 楫取魚彦(なほ)に[1723-82]の継妻、江戸の歌人;魚彦門
- 5309 **和角**(わかく) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」入 [しよんぼりと山田のかざししぐれけり](卯辰集419)
- 5371 **倭角**(わかく) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」5句入 [物召さぬ仏うれしや肉落ちず](二葉之松85、仏様は貧しいわが家でも痩せはしない)
- 和嶽(わがく) → 一清(かずきよ・佐藤/葛西、和算家) M 1 5 1 8
- 若草舎(わかくさのや) → 磐主(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学) B 1 1 8 4
- 5310 **若狭**(わかさ・or美作) ? - ? 鎌倉期歌人/連歌;1241「仁治二年連歌懐紙」連衆
- 5311 **若狭**(わかさ・森川もりかわ) ? - ? 森川重俊[1584-1632秀忠に殉死]の甥、江前期会津藩士/2代藩主蒲生忠郷(たださと)の側近;美貌、1627忠郷没後殉死せず出奔、京で反物商を営む
- 若狭(わかさ・伊達) → 大蔵(おおくら;通称・伊達だて、領主) C 1 4 7 9
- 若狭(わかさ・寺西) → 秀澄(ひでずみ・寺西てらにし、藩士/書翰) D 3 7 1 0

若狭(わかさ・寺西) → 秀賢(ひでかた・寺西、秀澄男/藩家老) C 3 7 9 4
 若狭(わかさ・福島) → 末済(すえなり・福島/度会、神職/漢学) F 2 3 5 4
 若狭(わかさ・福井) → 公清(きみきよ・福井/栗野・足代、神職) M 1 6 0 2
 若狭(わかさ・市橋) → 順政(よしまさ・市橋いちはし、神職/歌人) L 4 7 5 8
 若狭(わかさ・菌田) → 守宣(もりのぶ・菌田/荒木田、神職/国学) G 4 4 2 1
 若狭(わかさ・幸福/荒木田) → 嗣興(つぐおき・中西/荒木田/幸福、神職/本草) 2 9 6 8
 若狭(わかさ・鈴木) → 眞重(まじげ・鈴木/藤原、神職/国学) L 4 0 7 8
 若狭(わかさ・南部) → 信有(のぶあり・南部なんぶ、領主/和学) J 3 5 4 5
 若狭(わかさ・深尾) → 独笑(どくしょう・深尾ふかお、領主/儒者) W 3 1 2 1
 若狭(わかさ・細井) → 寧雄(やすお・細井ほせい、絵師/和算家) B 4 5 0 3
 若狭(わかさ・長岡) → 政業(まさなり・長岡ながおか、神職/歌人) R 4 0 2 4
 若狭(わかさ・伊木) → 忠澄(ただずみ・伊木いぎ/土倉、藩家老/歌) V 2 6 4 0
 若狭(わかさ・吉田) → 俊彦(としひこ・吉田よしだ、藩士/国学) W 3 1 9 3
 若狭(わかさ・福井) → 末経(すえつね・福井ふくい/度会、神職/国学) J 2 3 1 0
 若狭(若作わかさ・久米) → 吉有(よしあり・久米くめ/水野、神職) M 4 7 5 1
 若狭(わかさ・横地) → 長重(ながしげ・横地よこち、神職/国学) P 3 2 2 6
 若狭阿闍梨(わかさのあじかり) → 隆源(りゅうげん、天台僧/歌人) 4 9 0 8
 若狭守(わかさのかみ・水野) → 忠通(ただゆき・水野、幕臣/歌人) F 2 6 9 9
 若狭守(わかさのかみ・水野) → 忠一(ただかず・道一・水野みずの/源、幕臣) U 2 6 9 4
 若狭守(わかさのかみ・大久保) → 忠順(ただより・大久保おおくぼ、旗本/歌) U 2 6 2 2
 若狭守(わかさのかみ・本多) → 助芳(すけよし・本多ほんだ、藩主/和学) J 2 3 2 3
 若狭守(わかさのかみ・堀田) → 一継(かずつぐ・堀田ほった/本田、武将/旗本) V 1 5 6 4
 若狭守(わかさのかみ・齋藤) → 叙胤(のぶたね・齋藤さいとう、廷臣/歌人) I 3 5 5 8
 若狭守(わかさのかみ・松平) → 直明(なおあき・松平まつだいら、藩主/和学) O 3 2 8 7
 若狭守(わかさのかみ・分部) → 光庸(みつね・分部わけべ、藩主/歌) K 4 1 9 7
 若狭守(わかさのかみ・青木) → 永古(ながひさ・青木あおき、神職/歌人) K 3 2 7 2
 若狭守(わかさのかみ・赤木) → 盛常(もりつね・赤木あかぎ、神職/歌人) J 4 4 0 3
 若狭守(わかさのかみ・糸永) → 千足(ちたり・糸永いとなが、神職) M 2 8 0 8
 若狭守(わかさのかみ・菊池) → 隆善(たかよし・菊池きくち、神職/歌人) W 2 6 7 3
 若狭守(わかさのかみ・牧野) → 保秀(やすひで・牧野まさの、神職/国学) G 4 5 6 4
 若狭守(わかさのかみ・松井) → 永雄(ながお・松井まつい、官人/歌人) O 3 2 8 2

5304 **若狭掾**(初世わかさのじょう・鶴賀つるが) 1717-8670 越前敦賀出身/江戸で御家人の家で養育、
 作曲家;江戸の豊後節の宮古路加賀太夫(富士松薩摩掾)門、1745師改名に随い富士松姓、
 1751朝日若狭掾を受領/58鶴賀若狭掾に改名/新内節の創始、加賀八太夫(鶴賀新内)の師、
 1772?「明烏夢泡雪」(通称;明烏)作曲、「蘭蝶」「浮世の別霜」「浮名初紋日」作、
 晩年は狂歌作者:大木戸黒牛名で芝品川連、「狂歌二葉草」編、
 [鶴賀若狭掾(;通称)の通称/号]別通称;高井庄兵衛/宮古路加賀八太夫(加賀八)、
 宮古路敦賀太夫/富士松敦賀太夫/朝日若狭掾/鶴賀若狭掾源義正、
 号;鶴翁(;剃髮号)/大木戸黒牛(;狂名)、法号;実相院、
 おこん(鶴吉/2世鶴賀若狭掾)の父

若狭亮(わかさのすけ・吹本) → 瑞穂(みずほ・吹本ふきもと、神職/国学) K 4 1 3 1
 若狭二楽(わかさのにらく) → 元信(もとのおぶ・武田/源、武将/幕臣/故実) D 4 4 6 7
和歌四天王(わかしてんのう、為世門の四天王):鎌倉末期~南北期に活躍した為世門下4人の歌人
 → 浄弁(じょうべん、出自不詳) 2 2 0 4
 → 頓阿(とんあ:法諱・二階堂貞宗、時宗僧) 3 1 6 7
 → 能誉(能与のうよ、出自不詳) 3 5 5 4
 → 兼好(けんこう・吉田/卜部) 1 8 1 2
 [能与没後に慶雲を加える] → 慶雲(けいうん、浄弁男) 1 8 0 2
 若竹藤九郎(わかたけとうくろう) → 笛躬(初世ふえみ・若竹、浄瑠璃人形遣) B 3 8 2 1
 和哥竹政太夫(わかたけまさだゆう) → 義太夫(2代ぎだゆう・竹本播磨少掾) 1 6 1 9

和歌橋大夫(わかたばなだゆう)→ 成元(なりもと・橋、歌人) I 3 2 3 2

若太郎(わかたろう・赤井)→ 忠常(ただつね・赤井あかい/源、里正/歌) V 2 6 0 9

和歌所旧老法印(わかどころのきゅうろうほういん)→ 堯孝(ぎょうこう;法諱、僧/歌人) C 1 6 4 4

和歌所老拙法印(わかどころのらうせつほういん)→ 堯孝(ぎょうこう;法諱、僧/歌人) C 1 6 4 4

5375 若菜(わかな;組連) ? - ? 江戸浅草新堀(しんぼり/現在にいほり)の組連/取次;

取次;1771・72「川柳評万句合」入、

取次例[御気根ごきこんがいいと石山寺でほめ](1771万句合/前句;しほらしい事々々)、

(僧達は源氏物語を読んでいないので紫式部の執筆態度を誉めるしかない)、

新堀の若松との関係不詳、→ 若松(わかまつ;組連) 5 2 7 4

若菜(わかな;俳号) → 川柳(2世せんりゅう、1759-1818、点者) 2 4 4 0

若菜麿(わかなまろ・蒲) → 正茂(まさもち・蒲がま、国学/者) O 4 0 9 7

和歌之助(わかのをすけ・菊池)→ 薫(かおる・菊池きくち、国学/歌人) U 1 5 4 9

若屋(わかのみや) → 竹茂(ちくも・荒巻あらまき、商家/俳人) D 2 8 7 9

5372 若松(わかまつ;組連) ? - ? 江中期江戸赤坂の組連、

取次;1737「雲鼓評万句合」入、

取次例;[有る菜もないといふのが馳走ぶり](1737万句合/日本流の挨拶)

5373 若松(わかまつ;組連) ? - ? 石川(武蔵荏原郡?)の組連;

取次;1748「筑丈評万句合」入;

取次例;[惚れさせて褒美に貰ふ虎の巻](浄瑠璃「鬼一きいち法眼三略巻」《1731文耕堂》の話)、

(一条堀川の鬼一の娘皆鶴みづる姫に愛された牛若[虎蔵]は鬼一から鞍馬山で兵書を受領)

5374 若松(わかまつ;組連) ? - ? 江中期江戸浅草新堀(しんぼり/現在にいほり)の組連/取次、

取次;1759・61・62・63「川柳評万句合」入、

取次例;[江戸者はなま兵法が相あひの山](1759万句合/相[間]の山は伊勢両宮間の遊里)、

(間の山の女芸人お杉・お玉は三味線弾きつつ客の投げ銭を撥でよける/江戸ツ子は上客)、

(諺;生兵法なまびょうほうは大怪我の基)

同じ新堀には組連[おきな][若菜]がある

若松(わかまつ) → 若松(じゃくしょう、雑俳、1690不角「二葉之松」入) H 2 1 6 1

若松(わかまつ・正岡) → 主税(ちから・正岡まさおか/越智、神職/歌) N 2 8 5 1

5368 若松曳也(わかまつひくなり) ? - ? 狂歌作者;1787「才蔵集」入;

[山々もみな白妙の丸綿はどちへ嫁入よめてゆきのつもり歟]

5302 若麻呂(わかまろ・山口忌寸やまぐちのいみき) ?-? 万葉三期567/827(;730年旅人梅花宴参加)、

大宰少典、帥旅人病の際派遣された大伴稻君・胡麻呂の帰京に当たり夷守駅まで送る;

大伴百代・大伴家持らと送別の宴を催す(万葉;567)、

[周防なる磐国山いはくにやまを越えむ日は手向よくせよ荒しその道](万葉;四567)、

5312 若水(わかみず・皇太后宮こうたいごうぐうの、別名;大進だいしん/岡崎大進) ?-? 岡崎三位範兼女か?、

皇太后宮(後白河天皇中宮皇后忻子、藤原公能女)の女房、

歌人、賀茂重保・藤原成範・静賢・澄憲らと交流、

1183家集「皇太后宮大進こうたいごうぐうのだいしん集」(;賀茂社奉納)、月詣集入、千載832、

[くれなゐにしをれし袖も朽ち果てぬあらばや人に色も見すべき](千載;恋832)

(紅涙に朽ちた長い途絶えの苦しさ)

5378 若緑(わかみどり;組連) ? - ? 江中期江戸浅草花川戸の雑俳の組連、

取次;1737「琴公評万句合」入、

取次例;[仲人なかうどが来るとて顔へへげるほど](万句合/前句;いさみかゝつて々々)

(はがれ落ちるほどの厚化粧)

若紫(わかむらさき・源氏楼)→ 源氏楼若紫(げんじろうわかむらさき、記録者)

5313 若壳(わかめ・久米連くめのむらじ、藤原宇合妻) ?-? 夫[94?-737]没後739石上乙麻呂と密通;下総配流/

740大赦/[若壳33-4歳/乙麻呂51-5歳]/関連歌:万葉六1019-23

参考 → 乙麻呂(弟麻呂おとまろ・石上朝臣) 1 4 2 2

→ 宇合(馬養うまかい・藤原朝臣) 1 2 8 3

若乳母(わかめのと) → 涼(すずし/すずしき、源範頼女/女房歌人) D 2 3 3 5

- 5364 **和哥茂少々詠安**(わかもしょうしょうよみやす) ?-? 江戸狂歌;1785「後万載集」3首/87「才蔵集」入;
 [待ちわびてさつそくはずすかけがねほとりの空音もいらぬ閨の戸]
 若屋(わかや・荒巻) → 竹茂(ちくも・荒巻、俳人) D 2 8 7 9
 我家亀楽(わがやのきらく) → 我家亀楽(わがいえのきらく、狂歌) 5 3 6 7
 和歌山(わかやま;通称) → 豊浦(とよら;女房名、藩主妾/歌人) V 3 1 8 7
和歌六人党(わかろくにんどう); 平安期1040~64頃の歌人集団/袋草紙・八雲御抄・続古事談などに記載
 ただし多少出入りがある
 → 範永(のりなが・藤原;?-?1077前没) 3 5 2 2
 → 棟仲(むねなか・平;?-?1059存) B 4 2 9 6
 → 頼実(よりざね・源;1015-1044) I 4 7 6 5
 → 兼長(かねなが・源重成;?-?1057存) 1 5 7 3
 → 経衡(つねひら・藤原;1005-72) 2 9 1 3
 → 頼家(よりいえ・源;1007?- ?1076存) I 4 7 3 9
 さらに → 為仲(ためなか・橘;?-1085) H 2 6 1 4
 和義(わぎ・斯波/源) → 和義(まさよし/かざよし・斯波しほ/源、武将/歌) I 4 0 4 0
 和義(わぎ;名) → 尊峰親王(そんほうしんのう、浄土宗知恩院) F 2 5 7 3
 和義(わぎ・伊藤) → 和義(かざよし・伊藤いとう、藩士/勤王派) M 1 5 5 7
 和喜右衛門(わきえもん・中嶋) → 昌隆(まさたか・中嶋、藩士/下馬札書) D 4 0 1 9
 和菊(わぎく・下郷/千代倉) → 常和(じょうわ・下郷しもさと、商家/俳人) C 2 2 2 0
- 5314 **和吉**(わきち・市岡いちおか) ? - ? 歌舞伎作者;1853如臯「与話情浮名横櫛」番付作
 和吉(初世わきち・松田) → 文耕堂(ぶんこうどう、浄瑠璃・歌伎作者) F 3 8 2 3
 和吉(2世わきち・松田) → ばく(・松田、俳人/浄瑠璃作者) C 3 6 4 9
 和吉(わきち・朝野) → 泰彦(やすひこ・朝野あさの、国学/神職) C 4 5 7 1
 和吉(わきち・伊藤) → 常信(つねのぶ・伊藤いとう/岩淵、神職) F 2 9 2 1
 和吉(わきち・亀屋/武重) → 正重(まさしげ・武重たけしげ/児玉、国学者) L 4 0 8 8
 和吉(わきち・小河原) → 重麿(しげまる・小河原おがわら/藤原、神職) N 2 1 6 0
 和吉(わきち・野口) → 小成(おなり・野口のぐち、農事改良/歌人) E 1 4 0 4
 和吉太夫(わきちだゆう・杉木) → 光貞(みつさだ・杉木/幸田/荒木田、神職/歌・俳人) D 4 1 4 5
- 5315 **和及**(わきゅう・三上みかみ/高村たかむら) 1649-92 44歳 京の建仁寺前に住、俳人:常辰つねとき門、
 1685(貞享2)壬生雀の森に隠棲;露吹庵を結ぶ、1687百韻興行に参加、多くの俳書に入、
 点者としても活動/作法書も著述、1690「雀の森」1691「俳諧ひこはゑ」編、
 1691作法書「詠諧番匠童はいかいばんしょうわらわ」編、
 句;1690言水「新撰都曲」入/91一存「藤波集」句文・歌仙・跋入、追善集「水茎の岡」、
 [菜の花に半なかばや埋うづむ塔ひとつ] (雀の森、類句;菜の花の中に城あり郡山;許六)、
 [和及(;号)の幼名/別号]幼名;辰之介、別号;露吹庵/直唱法師
 和久(わきゅう・菊池) → 和久(にぎひさ・菊池/菊地きくち/藤原、国学/神職) H 3 3 0 1
- 5316 **和牛**(わぎゅう・江原えはら、風和[1652-1712]男) ?-? 羽前最上の俳人;1713父遺稿「把菅たばねすが」刊、
 調柯の弟
 和郷亭(わきょうてい) → 八風(はつふう・馬場、俳人/和漢学) F 3 6 3 0
 和煦(わく/かざあき/にこてる・岡田/日野) → 麿泉(じょうせん・日野、儒者) K 2 2 5 0
- 5317 **或斎**(わくさい・永阪/永坂ながさか、名;侗、菅野兼山の養子) 1827-1901 75 江戸の儒者:
 菅野家塾会輔堂の教授、1869上総菊間藩に招聘;督学、1871致仕/教務省・内務省に出仕、
 書;男谷燕斎門/篆刻・筆筭を嗜む、江沢講修・小畑詩山・河田迪斎と交流、
 「或斎先生印譜」「黒甜郷話」「故芸叢語」著、三村竹清の師、
 [或斎(;号)の通称/別号]通称;程之助/良蔵、別号;竹軒
 和群居(わぐんきょ) → 正明(まさあき・尾崎/源、国学/狂歌) B 4 0 0 7
- 5318 **和溪**(わけい/かけい;道号・宗順そうじゆん;法諱) 1496-1576 81 但馬の臨濟僧:雲叔宗慶門;嗣法、
 1555京の大徳103世、霜筠軒そういんけんを創設、「竜峯尊宿夜話下」著、
 [和溪宗順の号]号;一逕、諡号;徳光眞照禅師
- 5339 **和卿**(わけい・大竹おおたけ/修姓;岳、名;偕) ?-? 夭逝 20歳没 清暉先生(大竹麻谷まく)の孫、

江戸の漢学者/詩人、才あるも早世、山梨稲川「思旧漫録」記事入

- 和卿(わけい・坂さか) → 仲礼(ちゅうれい・坂さか、藩士/儒) G 2 8 9 9
和卿(わけい・井上) → 鶴洲(かくしゅう・井上いのうえ教親、易占家) H 1 5 3 0
和卿(わけい・青木) → 葵園(きえん・青木あおき、儒者) J 1 6 7 0
和卿(わけい・奥宮) → 曉峰(ぎょうほう・奥宮おくみや、儒/書家) I 1 6 8 2
和卿(わけい・田/脇田) → 赤峰(せきほう・脇田わきた/田、書家) K 2 4 4 9
和卿(わけい・本間) → 棗軒(そうけん・本間ほんま、医者) H 2 5 0 9
和卿(わけい・富田) → 節斎(せつさい・富田、役人/国学/詩歌) L 2 4 0 3
和卿(わけい・篠崎) → 暎孤(けいこ・篠崎しのさき、漢学者/兵法) F 1 8 5 3
和敬院(わけいん;法号) → 梅厓(ばいがい・十時ととき、儒者/書画) 3 6 8 2
- 5319 和月(わげつ・牧野まきの) ? - ? 江後期近江蒲生郡日野の生/近江仁正寺藩士、
俳人:1841(天保12)素外書入「俳諧根源集補闕」著、「筆のしみつ」編、
[和月(;号)の通称/別号]通称;元策/玄策、別号;枕流庵/幾夜庵/黙翁
和気春画(わけのしゅんが) → 百亀(ひゃつき・小松こまつ、薬屋/嘶本) E 3 7 9 4
- 5320 和軒(わけん・貝原かいばら、名;常春、楽軒2男) 1671-1733 63 福岡藩儒の家/儒者、一時叔父益軒の養子、
終生仕官せず・家を出て筑前那珂郡に隠棲、詩文・歌を嗜む、「朝野雜載」編、「狂夫之言」著、
1694「瀛津宮大略」、「筑前国統諸社縁起」「和軒吟草」「和軒続吟草」著、耻軒ちけん弟、
[和軒(;号)の字/通称/別号]字;元夫、通称;百太夫/安平、別号;清々翁
- 5321 和昂(わこう・源みなもと、蝸廬庵) ? - ? 江中期の歌人;冷泉家門、
1780私撰集「三世さんぜの花」編(冷泉為綱・為久・為村3代の詠集)
和高(わこう・牧野) → 和高(かざたか・牧野まきの、藩士/文筆) F 1 5 2 1
和好(わこう/かざよし・半田) → 常牧(じょうぼく・半田/繁田/伴田、俳人) B 2 2 6 2
和孝(わこう/かざたか・松田) → 蓼水(りょうすい・松田まつだ、藩儒/勤王派) I 4 9 3 3
和幸(わこう・富田) → 和幸(かざゆき・富田とみた、陪臣/国学) V 1 5 1 4
和厚(わこう・大塚) → 和厚(かざあつ・大塚おおつか、藩士/歌人) T 1 5 9 2
和交(わこう・堀尾) → 和推(2世わすい・堀尾ほりお、俳人) 5 3 3 0
和光(わこう・裏松/堀河) → 親実(ちかざね・堀河/藤原、廷臣/歌) 2 8 9 4
和光(和厚わこう・秋山) → 和光(かざてる・秋山あきやま、幕臣/歌人) T 1 5 3 7
和光(わこう・三室戸) → 和光(まさみつ・三室戸みむろど、神職) S 4 0 8 4
和光庵(わこうあん) → ト友(ぼくゆう・五大坊ごたいぼう、華道家) E 3 9 0 4
和光院(わこういん) → 日峰(にっぽう;法諱・円通、日蓮僧) F 3 3 6 3
和光院(わこういん) → 稚子(まさこ・松平まつだいら/酒井、藩主妻/歌人) P 4 0 1 5
和合舎(わごうしゃ) → 工十(こうじゅう・工藤くどう、俳人/連歌) J 1 9 5 5
和光亭(わこうてい) → 宣風(のりかぜ・高井/常盤井、国学/歌) B 3 5 1 1
和光亭(わこうてい) → 秀道(ひでみち・桜井さくらい、国学/歌人) J 3 7 7 3
- 5377 和国(わこく・老声庵・松戸庵) ?-1844頃没 江戸の寿司屋松戸庵主人、川柳作者;布引連、
1844和国追福会;これ以前に没、[大海で土ほじりするうらゝかさ](柳多留;二四)
和国斎(わこくさい) → 定胤(さだたね・和田/平、国学者) I 2 0 4 7
和左衛門(わざえもん・近藤) → 春彦(はるひこ・近藤、国学者) B 3 6 7 2
和左衛門(わざえもん・御菌) → 如淵(じょえん・御菌みその、藩士/国学) V 2 2 2 9
和哉(わさい・奈古屋) → 彰(あきら・奈古屋なこや、藩士/歌人) I 1 0 0 6
和左治(わさじ・鶴嶺) → 戊申(しげのぶ・鶴嶺つるみね、国学者/歌人) C 2 1 7 3
和佐太夫(わさだゆう・陸竹) → 三蔵(さんぞう・難波、浄・歌舞伎作者) G 2 0 0 0
早稲(和佐禰/王社年わさね・鈴木) → 真実(まさね・鈴木、藩士/国学/歌) C 4 0 6 2
和三郎(わさぶろう・藤森) → 文輔(ぶんぼ・藤森ふじもり、紺屋/俳人) G 3 8 4 3
和三郎(わさぶろう・五味) → 文嬭(ぶんしょう・五味ごみ、心学者/俳人) F 3 8 7 6
和三郎(わさぶろう・井上) → 正清(まさきよ・井上/安部、幕臣/砲術) C 4 0 3 4
和三郎(わさぶろう・後閑/小田) → 又蔵(またぞう・小田/後閑、幕臣/奉行) J 4 0 4 8
和三郎(わさぶろう・武田) → 車龍(しゃりゅう・武田ただた、歌人) Z 2 1 3 8
和三郎(わさぶろう・津軽) → 寧親(やすちか・津軽つがる、藩主/俳人) G 4 5 2 7

- 倭三郎(わさぶろう・武内) → 度径(ただみち・武内/竹内、和算家) Q 2 6 9 0
- 5322 **技美**(わざよし・鶴飼うかい、通称;福三郎)1778-1835⁵⁸ 代々豊後岡藩士/大扈従・用人格を歴任、山鹿流軍学者:1811中富東山門;諸家の秘宝を受、江戸の山鹿素水と交流、「相馬祭記」編/「舟戦要領私抄」著
- 和山(わさん・檜林) → 宗建(そうけん・檜林ならばやし、医者;種痘) B 2 5 2 7
- 和山(わさん・橋本) → 守善(もりよし・橋本はしもと、和算家) G 4 4 9 2
- 和三(わさん・吉田) → 正恭(せいきょう・吉田よしだ、医者/蘭学) H 2 4 9 3
- 和散歳(和散才わさんさい) → 立志(3世りゅうし・高井たかい、俳人) E 4 9 3 5
- 5323 **和之**(わし) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
[草の芽のうへに干しをく筵むしろかな](卯辰集;一77)
- 和子(わし・源) → 承香殿女御(じょうきやうでんのようご、醍醐天皇女御) I 2 2 0 8
- 和氏(わし・細川) → 和氏(かずうじ・細川、武将・歌人) C 1 5 1 5
- 和之(わし/かづゆき・亀谷) → 和竹(わちく・亀谷かめたに、藩士、和算家) 5 3 4 8
- 5305 **鷺夫**(わしお・大倉おおくら、名;高権たかかり、新兵衛男)1780-1850⁷¹ 土佐高知通町の富商蔵屋の生、1822大阪で観相売卜業、歌人:飛鳥井雅澄門/のち本居大平門、万葉調和歌を修学、妻;左知子、三輪み(歌人)の父、大倉兵部少輔信秀(土佐国司一条家の家臣)の末裔という、生前の歌集はない;没後明治期に「鷺夫歌」「鷺夫遺稿」編刊、
[鷺夫(;号)の通称/別号]通称;吉右衛門、別号;花月道人/不老門、屋号;蔵屋/花屋
- 5385 **鷺雄**(わしお・鈴木すずき、)1782- 1861⁸⁰ 信濃伊那郡の国学者/歌人;
国学・歌道;服部菅雄・森広主門、歌;植松茂岳しげおか門、
[鷺雄(;名)の通称/号]通称;房蔵、号;桜屋/花月庵重碩
- 和志夫(わしお・小笠原) → 貞宣(さだのぶ・小笠原おがさわら、国学/歌/神職) O 2 0 0 3
- 5324 **和七**(初世わしち・市岡いちおか/松本/待本/市外)?-? 1814^存 大阪歌舞伎作者:初め近松徳三の助作、辰岡万作の二枚目作者、1802(享和2)大坂角の芝居;姉川亀三郎座の立作者、1810市川市蔵に随従し江戸へ;森田座出勤/13帰坂;市川善太郎座に出勤、1800「恵宝大功記」05「恋詣清水桜」09「四天王嫩功」11「台賀栄曾我」14「けいせい釣鐘桜」著、
[市岡和七(;号)の別号]松本和七/待本和七/市外和七/市岡禎記(1814より)
- 鷺千代(わしちよ・猪熊) → 秋彦(あきひこ・猪熊いのくま/卜部、国学者) G 1 0 9 5
- 和七郎(わしちろう・服部) → 宗忠(むねただ・服部はっとり/野辺、藩士/国学) E 4 2 1 8
- 鷺尾(わしのお;号) → 欣子内親王(きんしなしいんのう、後醍醐皇女、歌人) E 1 6 1 1
- 鷺尾(わしのお;号) → 隆衡(たかひら・四条/藤原、廷臣/歌人) D 2 6 6 2
- 鷺尾大納言(わしのおだいなごん) → 隆衡(たかひら・四条/藤原、廷臣/歌人) D 2 6 6 2
- 鷺尾中納言(わしのおちゅうなごん) → 隆良(たかよし・四条/鷺尾、廷臣/歌) E 2 6 0 6
- 鷺之助(わしのすけ・黒阪) → 昌芳(まさよし・黒阪くろさか、神職/国学) P 4 0 5 0
- 5381 **鷺彦**(わしひこ・大久保おおくぼ、通称;章言)?-1835 甲斐巨摩郡の医者;上京し医術修学、国学;坐光寺南屏門/のち本居宣長門;辻保順と共に鈴廼屋門下の医界の双壁
- 5325 **和車知難陀**(わしやしらなんだ)? - ? 狂詩文作者、
1831狂詩文;安連騷界子あれそうかい「赤油行せきゆう」校;数名の戯名か?
- 和種(わしゆ・上原) → 和種(かづたね・上原、神職) M 1 5 2 8
- 和周(わしゆう・中村) → 栗園(りつえん・中村/片山、藩儒/執政) B 4 9 5 9
- 5326 **和什**(わじゆう) ? - ? 小松俳人;1715乃露だいろ「八ゆふぐれ」歌仙入
- 和十郎(わじゅうろう・佐立さて) → 久寿根兼満(くすねかねみつ、藩士/狂歌) B 1 7 3 9
- 和十郎(わじゅうろう・法道寺) → 善(よし・法道寺、和算家) K 4 7 2 4
- 和三郎(わじゅうろう・戸田/間瀬) → 忠至(ただゆき・戸田/木村/間瀬、藩主) R 2 6 1 8
- 和春(わしゆん・桂川) → 国幹(くにもと・桂川/8世、蘭学;化学) D 1 7 2 7
- 和春(わしゆん) → 上太郎(じょうたろう・紀、三井、浄瑠璃作/狂歌) 2 2 8 7
- 和春(和俊わしゆん・大橋) → 卓丈(たくじょう・大橋/石橋、俳人) O 2 6 0 6
- 和順(わじゆん・竹中) → 和順(かづより・竹中たけなか、藩士/文筆家) M 1 5 5 9
- 話順大師(わじゆんだいし) → 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1
- 5327 **和祥**(わしやう・かしやう) ? - ? 江中期宝暦・明和1751-72頃草双紙作者:黒本/青本作者、

1762「恋の紅染」(鳥居清満画)、63「楠末葉軍談」64「釣竿由来」74「京橋中橋於満紅おまんがべに」、
「源氏重代劔宮居」著

- 和将(わしよう・山室) → 松軒(しょうけん・山室やまむら、医者/歌人) I 2 2 4 8
 和鍾植(わしようき) → 方山(ほうざん・滝たき、俳人:貞門のち談林系) B 3 9 0 0
 和嘯堂(わしようどう) → 立志(3世りゅうし・高井、俳人) E 4 9 3 5
 和照霊神(わしようれいしん) → 国満(くにまる・杉浦さざうら、神職/国学) 1 7 2 2
 和二郎(わじろう・佐立さたて) → 久寿根兼満(くすねかねみつ、藩士/狂歌) B 1 7 3 9
 和二郎(わじろう・川合) → 清逸(きよはや・川合かわい、国学者) T 1 6 9 5
 和次郎(わじろう・奥瀬) → 清筋(清閑きよひろ・奥瀬おくせ、藩士/儒者) Q 1 6 2 3
 和臣(わしん・安部) → 貞貞(まさだ・安部あべ、惟貞男/国学者) D 4 0 1 1
 5328 和水(わすい) ? - ? 江前期大阪の俳人;1692遠舟「八重一重」独吟入
 5329 和推(初世わすい・堀尾ほりお) 1662-1743 82歳 江戸本芝の俳人:調和門、「乙巳年賀」「丙午年賀」、
1691不角「二葉之松」6句入/1716風葉「江戸筏」独吟歌仙入、江戸座宗匠、
1745湖十「江戸廿歌仙」独吟歌仙入(和専名)、太郎河入入、
息子和交に和推号を譲り[調和2世]を名乗る、
[身の六十むすじ色香のぬけし花の薬いべ](二葉之松170)、
[和推の別号] 敲柳堂/古柳庵/和専/調和2世
 5330 和推(2世わすい・堀尾ほりお、初号;和交、和推男)?-? 江中期江戸の俳人:父門、1733和推号を継承
 5331 和吹(わすい・藤村ふじむら/修姓;藤、名;幸総、市嵐男)?-? 備後福山の俳人:
1759(宝暦9)父市嵐の追善集「よもきか露」編
 5332 和水(わすい;号) ? - ? 江中期俳人:蓼太門、
1770(明和7)雪帆楼太喬の追善集「あみだがさ」編
 5333 和水(わすい・荒井あらい) 1801 - 1859 59歳 代々出羽鶴岡の豪商;木綿商・質屋を経営、
若年より心学を志す:江戸に出て竹田道跡門、1850中村徳水を鶴岡に招聘、
1855(安政2)心学道場鶴鳴舎を開設;庄内地方の心学普及に尽力、鶴岡藩より表彰、
1859心学者最高位三舎印鑑を授与、門人達が本鏡寺に碑を建立、
「荒井和水手控」「心学紀行」「発語」著、
[和水(;号)の名/通称]名;昌義/維章、通称;伝右衛門
 5369 和芻(わすう) ? - ? 九州俳人;野坡門流/1762「残月集」編(風律序)
 5334 和輔(和助わすけ・並木なみき)?- ? 江中期浄瑠璃・歌舞伎作者;並木宗輔門?、
大坂陸竹小和泉座の浄瑠璃作者/のち歌舞伎作者として並木翁輔・永輔らと合作、
1746「歌枕棗棠花合戦」「唐金茂右衛門東鬢」/58「襲廓曙」著
 5335 和助(わすけ・音、音羽助2世/沢田屋和助)?-? 歌舞伎作者;3世菊五郎門/1826羽助2世襲名、
1842沢田屋和助;帳元名/61和助を名乗る、1826「還花雪梅勝鯨浪」61「仇情浮名諷」
 5336 和助(わすけ・市岡いちおか) ? - ? 嘉永安政1848-60頃歌舞伎作者/江戸中村座付、
初世和助門か?、1849「伊達旭盛桜彩幕」51「嬾源氏騰張取舵くらべんじひいきのとりかじ」助作、
1849「御伽譚博多新識」著
 和助(わすけ・和泉屋) → 焉馬(えんば・烏亭、狂歌/浄/読本) B 1 3 3 3
 和助(わすけ・松村) → 忠英(ただひで・松村、和算家) Q 2 6 6 2
 和助(わすけ・松本) → 忠道(ただみち・松本まつもと、和算家) Q 2 6 9 1
 和助(わすけ・草加) → 崑山(こんざん・草加くさか/そうか、儒者) G 1 9 5 8
 和助(わすけ・安枝) → 蘇民(そみん・安枝やすえ、儒者) K 2 5 4 2
 和助(わすけ・林) → 諸鳥(もろとり・林はやし/塩瀬、商家/歌人) H 4 4 5 5
 和助(わすけ・早川) → 真学(しんがく・早川はやかわ、国学/歌人) N 2 2 7 1
 和助(わすけ・植松、和助菩薩) → 自謙(じけん・植松うえまつ、心学者) D 2 1 5 5
 和助(わすけ・林) → 東夷庵古渡(とういあんこわたり、狂歌) B 3 1 0 1
 和助(和亮わすけ・梅沢) → 敬典(たかのり・梅沢うめざわ、書家) M 2 6 8 1
 和助(わすけ・関藤) → 藤陰(とういん・関藤せきとう/石川、藩儒/蝦夷踏査) B 3 1 0 7
 和助(和介わすけ・高杉/三谷) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1
 和助(わすけ・堀) → 安道(やすみち・堀ほり/賀陽/香屋、国学) D 4 5 0 9

- 和助(わすけ・小賀) → 安諦雄(あさお・小賀おが/こが、神職/歌人) H 1 0 1 5
 和介(わすけ・安井) → 顕比(あきちか・安井、藩士/日記) D 1 0 5 3
 和介(わすけ・有吉) → 蔵器(ぞうき・有吉ありよし、儒者/教育) 2 5 9 7
 和介(わすけ・服部) → 中庸(なかつね・服部/箕田、医/国学) E 3 2 4 8
 和介(わすけ・岩橋) → 時夏(ときなつ・岩橋いわはし/大江、神職/国学) U 3 1 3 2
 和甫(わすけ・服部) → 大方(たいほう・服部/沢、藩士/儒者) C 2 6 2 0
 和輔(わすけ・加藤) → 礼文(ひろふみ・加藤かとう、国学者) I 3 7 9 8
 早稲(わせ→わざね・鈴木) → 真実(まさね・鈴木、藩士/国学/歌) C 4 0 6 2
 和世(わせい・上原) → 和世(まさよ・上原うえはら、神職/歌人) N 4 0 9 2
 和清(わせい・中山) → 和清(かずきよ・中山なかやま、藩士/兵学者) M 1 5 1 7
 和晴(わせい/かずはる・吉田/瓜生) → 金鷲(金峨さんが・梅亭、幕臣/戯作) D 1 6 8 3
- 5337 **和汐**(わせき・北村きたむら、別号;一陽堂)?-? 京の俳人:晩来門/師没後;吹簫軒雲鈴門、
 1749「夜でならひ」50「俳諧八重むくら」51「難波の花」「俳諧からにしき」52「豊の明」編
 和威(わせき・小島) → 尚質(なおかた・小島/小嶋、幕府医官) 3 2 9 5
 和積(わせき・渡辺) → 定斎(じょうさい・渡辺/赤坂、藩士/儒者) J 2 2 1 0
- 5384 **わせ子**(わせこ・島尾しまお、) 1806-1860 55 長門萩の島尾種芳たねよしの妻、歌人、安政7没、
 [すまの浦の沖こぐ船は木の葉にて時雨のわたるあはじしま山]([萩之歌人]入;16p)
- 5338 **和切**(わせつ、俳人仙呂[野坡門俳人]の孫) 1762-1841 80 安藝広島 of 俳人:古江門、
 1818(文政元)「雅奏」編、1819養花園継嗣;養花園句集「養花集」刊、
 「うるふくさ」(江左と共編)/「出雲日記」著、1821耳順頃に失明、1826「和切撰集」著、
 1841天来・梅室の七草論争批判;遺稿「葉分はわけの風」(門人霞ト刊)、
 [ひとつ葉の間や清水の行かよひ](1941「養花集」、
 [和切(;号)の別号] 雅素亭/養花園2世
- 5340 **倭泉**(わせん・石田いさだ、俳人石田賦泉の妻)?-? 1830 存 京の俳人:普求門、1776夫没後に出家;尼、
 1793(寛政5)夫賦泉17回忌追善集「こと草」/1801賦泉25回忌追善集「由幾安加利ゆきあかり」編、
 1816「鶴春秋」編、36刊「倭泉尼句留等」、菊舎尼と交流、能書家、
 [倭泉(;号)の別号] 松林庵/傘庵/倭泉尼/倭泉女
- 5341 **和筈**(わせん) ? - ? 加賀小松 of 俳人:1776樗良「俳諧月の夜」入、
 [夕暮れや風より奥の三日の月](月の夜;62/野山の向こうに三日月)
- 和専(わせん・堀尾) → 和推(初世わすい・堀尾ほりお、俳人) 5 3 2 9
- 5379 **和善**(わぜん・泉いずみ) ? - ? 江前期上方 of 俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第八女郎花発句/霜脇句等入、
 [散りぬるか今迄有りし女郎花](生玉万句;女郎花発句)
- 和前(わぜん・吉原) → 玉珂(ぎよくか・吉原よしはら、俳人) O 1 6 8 2
 倭泉尼(わせんに/倭泉女) → 倭泉(わせん・石田いさだ、女流俳人) 5 3 4 0
 和惣(わそう・上田) → 春道(はるみち・上田うねだ/木村、国学者) G 3 6 9 3
 和蔵(わぞう・杵屋/囃子方) → 幸三(二世こうぞう・松井、歌舞伎作者) B 1 9 6 2
 和蔵(わぞう・中村) → 栗園(りつえん・中村/片山、藩儒/執政) B 4 9 5 9
 和足峰寿(わそくほうじゅ) → 姫岳(きがく;号・明洗、天台僧/俳人) J 1 6 8 4
 和兌(わだ・伊藤) → 和兌(かずみち・伊藤いとう/藤原、藩士/国学) T 1 5 5 5
 倭太后(わたいごう) → 倭太后(やまとのおおきさい、倭姫王、皇后/歌) 4 5 1 5
 済(わたす・源) → 済(わたる・源、等男、廷臣/歌人) 5 3 4 4
- 5388 **轍**(わだち・堀ほり、字;由軛ゆうげつ/通称;勘左衛門) 1751-96 46 讃岐香川郡 of 歌人
 渡部ノ狂(わたなべのくるう) → 支考(しこう・各務かがみ、俳人) 2 1 1 9
 輪田入道(わだにゅうどう) → 順西(じゅんさい・法師、歌人) J 2 1 7 0
- 5342 **輪田丸**(わだまる・山本やまもと、五郎右衛門男) 1784-1834 51 越前敦賀 of 醤油醸造業;1806家督継嗣、
 狂歌:京 of 得閑斎繁雅門、判者を務める/能書家、
 1812「狂歌袖くら籠」編、「狂歌五十人一首」編、
 [輪田丸(;号)の幼名/通称/別号] 幼名;広吉、通称;五右衛門/五郎右衛門、
 別号;詞海斎/麓庵、屋号;美濃屋、法号;詞海斎宗誉念浄居士/宗誉念浄比丘

- 和太夫(わだゆう・鹿児島)→ 政明(まさあき・鹿児島かごしま、国学・歌) 4 0 9 5
 和太夫(わだゆう・鹿児島)→ 政章(まさあや・鹿児島、政明男/国学者) O 4 0 7 2
 和多里(わたり・江刺) → 恒久(つねひさ・江刺えさし、藩士/国学者) D 2 9 4 0
- 5343 度会船守(わたらいのふなもり、姓; 大野おの/名; 梶馬) ?-? 伊勢山田一之木町住の狂歌作者、
「伊勢ひかこと」「船守狂歌名証」著
- 5382 亘(わたり・小松原こまつばら/本姓; 源) 1812-1843³² 江戸の国学者/歌人、
[亘(;名)の号] 静窠せいかに玉太理
- 5344 済(わたる/わたす・源みなもと、等ひとし男) ?-? 平安前期廷臣; 従五上兵部少輔/淡路守/和泉守、
整ととのの兄、歌; 後撰集2首; 430(雁の歌)/1333(;出羽から上京の時の歌)
[明あかからば見るべきものをかりがねのいづこばかりに鳴きてゆくらん](後撰; 秋430)、
(秋闇の夜雑談中に雁の鳴き渡るを聞き詠む)
- 5345 渡(わたる・六橋園ろつきょうえん、姓; 田沼たぬま/名; 渡) 1762-1837⁷⁶ 江戸青山の狂歌作者; 朱楽菅江門、
のち五側判者、1830-37頃「狂歌古川百首」編
[六橋園渡(;号)の通称/別号] 通称; 小右衛門、
別号; 国府呑義/佐野渡/待伴舎/元日坊立春、法号; 宜明院
- 5346 度(わたる・天春あまがす、通称; 九郎右衛門) 1777-1859⁸³ 伊勢朝明郡仲野村の庄屋役/大庄屋役/代官、
儒; 皆川淇園門、歌; 香川景樹門、勤めの傍ら門弟指導、「岡部日記」著
- 5347 済(わたる・岡田おかた) ? - ? 江後期; 尾張高須藩儒/儒; 冢田大峯(1745-1832)門、
「貝坡遺穂」編
- 5387 亘(わたる・細野ほそ、) 1782 - 1855⁷⁴ 近江水口藩士; 物頭、国学者/蕉風俳人、
1843(天保14)天保一揆に義民を後援し鎮圧不備であったため百日の閉門、
[亘(;名)の初名/号] 初名; 正方、号; 梨軒/懋哉ほうさい
- 5383 済(わたる・上里こうざと、) 1820 - 1904⁸⁵ 讃岐那珂郡の神職/鶴足郡大川神社祠官、
詩歌; 奈良松莊しょうそう門/国学/儒; 秋山惟恭こいや門/皇学; 松岡御調みつぎ門、
阿野郡山田村の松熊神社社掌、大講義、
[済(;名)の通称/号] 通称; 虎之助、号; 有非庵/青節
- 5391 亘(わたる・山下やました、) 1826 - 1877⁵² 江戸の生/武蔵高麗郡飯能村の国学者
- 5389 亘(わたる・町田まちだ、名; 為忠ためただ、) 1833-88⁵⁶ 宇和島藩士、藩の目付役・勤定役、国学/歌人、
維新後; 東宇和郡卯之町中義堂教授/神山県・愛媛県の学区取締; 小学校教育の振興、
大阪裁判所/愛媛県の県官、1888(明治21)没、
[亘(;通称)の字/号] 字; 仙省、号; 習堂/梅窓
- 度(わたる・秦) → 新村(しんそん・秦はた、儒者/藩の教育) 2 2 5 1
 渡(わたる・小橋) → 静学(せいがく・小橋こばし、儒者/医者) H 2 4 7 9
 渡(わたる・高橋) → 弘泰(ひろやす・高橋たかはし、代官家臣/国学) K 3 7 1 2
 亘(渡わたる・舟橋) → 愨信(かくしん・舟橋ふなはし、藩士/農兵論) D 1 5 9 3
 亘(わたる・橋本) → 広臣(ひろおみ・橋本はしもと、藩士/歌人) F 3 7 6 2
 亘(わたる・松倉) → 恂(じゆん・松倉まつら、藩士/財政/記録) 2 1 8 7
 亘(わたる・高橋) → 赤山(せきざん・高橋、藩士/柔術/俳人) K 2 4 0 9
 亘(わたる・吉田) → 芳章(よしあき・吉田よしだ、神職/歌人) B 4 7 9 7
 亘(わたる・伊勢) → 貞喜(さだよし・伊勢いせ、藩士/故実) N 2 0 8 2
 亘(わたる・大川) → 鷲彦(さぎひこ・大川おおかわ、歌人) O 2 0 1 1
 亘(わたる・大谷) → 清香(きよか・大谷おおたに、藩士/国学者) T 1 6 7 5
 亘(わたる・木村) → 季明(すえあき・木村きむら/佐々木、家老/国学) I 2 3 3 6
 亘(わたる・小松原) → 亘(わたり・小松原こまつばら/源、国学者/歌) 5 3 8 2
 亘(わたる・北川) → 正介(まさすけ・北川きたがわ/栗生あお、藩士) M 4 0 9 5
 亘(わたる・野田) → 千蔵(ちもと・野田のだ/岩神/波多/秦、国学) N 2 8 2 8
 和樽(わたる・鈍々亭/祭) → 鈍々亭和樽(どんどんていわたる、岡本、戯作/狂歌) S 3 1 4 6
- 5348 和竹(わちく・亀谷かめたに、名; 和之) 1661-1734⁷⁴ 周防徳山藩士、和算家; 数理に長ず、藩諸職歴任、
享保1716-36頃徳山侍町割を主宰、1709「授時曆経診解」著(; 藩主毛利元次の援助で刊行)、
[和竹(;号)の通称] 通称; 藤七/小兵衛

- 和竹軒(わちくけん) → 道達(どうたつ・宮川、和学/歌) G 3 1 3 5
- 5349 和仲(わちゆう;道号・東靖;法諱)?-? 室町期臨濟宗建仁寺僧、
無等派;中国古典文学研究、月舟寿経の神道研究をも継承
- 5350 和肘(わちゆう) ? - ? 江前期俳人;調和門、1683調和「誹諧題林一句」15句入
和忠(わちゆう・大東) → 紹九(しょうく・大東おおひがし、連歌作者) I 2 2 1 1
和忠(わちゆう・瀬川/山川) → 恒成(つねなり・瀬川/山川、戯作者) C 2 9 9 5
和調(わちゆう・永井) → 次芳(つぐよし・永井、俳人/郷土史家) 2 9 9 0
和澄(わちゆう・榎並) → 和澄(ともずみ・榎並、和算家) P 3 1 6 2
和潮(わちゆう・永井) → 士前(しぜん・永井ながい、庄屋/俳人) U 2 1 1 8
和鳥(わちゆう;号) → 二三治(にそうじ・三升屋、歌舞伎作者) 3 3 0 2
和長(わちゆう・東坊城) → 和長(かずなが・東坊城ひがしぼうじょう/菅原、廷臣/詩歌) 1 5 1 8
和暢(わちゆう・川波) → 和暢(かずのぶ・川波かわなみ、庄屋/国学) U 1 5 3 5
和槌(わちゆう・葛井) → 文哉(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌) F 3 8 2 9
- 5351 曰人(わつじん・あつじん・遠藤えんどう/旧姓;木村、名;定矩さだのり) 1758-1836⁷⁹ 陸前桃生郡寺崎村の生、
寺崎村の大番士遠藤家の養嗣子;仙台藩士、大番士/石巻に住、儒/経史;志村五城門、
鈴鹿流長刀を習得、俳人:燕々亭百陽門/白居門、蕉門に関する研究、乙二と交流、諸国行脚、
帰国;給人町の芭蕉庵で句作;門人千人/書画;鳥羽風画法、合戦谷に曰人の記念句碑あり、
1804「寿身俵すみだから註炭俵注」「ひはほうし」「蕉翁全伝」、05「落笠集」14「坪西考」著、
1816「以筆代言」編/1822「芭蕉翁系譜」31「続三十里集」33「七部礫嘶」、「句脈要領」著
「蕉門諸生全伝」「さめさめ草」「四五枚集」「滝おほろ集」「曰人古跡考証」「曰人句集」著、
「相撲法式故実」画/「曰人日記」著、
[立ちよれば名月もたぬ松もなし][宮城野に大根植えてへらしけり]、
[曰人(;号)の字/通称/別号]字;文規、通称;清左衛門/伊豆之介、
別号;百秋/百陽/竹林舎/竹林長者/芭蕉庵/晴湖庵濁斎/木間庵/柚庵(ゆうあん)/王曰人、
汪曰人/浅茅庵/稲麦庵/紫兵衛庵/言外堂/蚊小庵/富山亭/富山翁/桃園/桃庵(とうあん)、
町々菴/禅翁/奥海散人/逢州山人/細道庵/狭庵碧城、法号;竹林軒喩月日翁居士
- 5352 和汀(わてい) ? - ? 江戸の俳人;1691賀子「蓮実」1句入(;181)、
[津の国は藤よむさしは角田川すみだがは] (蓮実;春181/撰津野田は藤:武蔵では隅田川)
和亭(わてい・頼) → 春水(しゅんすい・頼らい、儒者/藩儒/詩人) 2 1 6 0
和鼎(わてい・成島) → 和鼎(かずかね/かずさだ・成島・秦、幕臣/儒/歌) C 1 5 1 7
- 5353 和笛(わてき・桃井庵とうせいあん)?- ?1801-3没 江戸神田明神下の川柳判者;上野山下桜木連所属、
桜木連・いろは連・玉垣連に投句、1780角力会(誹風柳多留十五篇)に初見、
1794-1800「誹風柳多留」二四-二九篇を撰評、初世川柳没後の主選者、
1803てつ磨「最上土産」入、[抜け参りあかざれいゑて思ひ立](柳多留一五)
和島(わとう;俳名) → 二三治(にそうじ・三升屋、歌舞伎作者) 3 3 0 2
和等(わとう・船越) → 良弼(よしすけ・船越ふなこし/北条、剣術/歌) O 4 7 9 2
和同(わとう・小林) → 函山(かんざん・小林こばやし、漢学者) Q 1 5 8 1
和堂(わとう・土屋) → 老平(としひら・土屋つちや/武居、歌/史家) V 3 1 7 7
和堂(わとう・樋口) → 眞幸(まさき・樋口ひぐち、藩士/漢学者) S 4 0 0 7
倭道翁(わどうおう) → 充長(あつなが・井関いぜき、神職/国学) E 1 0 9 2
和藤内(わとうない;「国姓爺合戦」主人公) → 成功(せいこう・鄭、武将) 2 4 7 3
和南(わなん;号) → 有悦(ゆうえつ;法諱、真言僧) 4 6 7 4
- 5354 王仁(わに、和邇吉師わにきし)?- ? 漢の高祖の後裔で百濟住の漢学者(続日本紀)、
応神期招聘され来朝、「論語十巻」「千字文一卷」貢上、
宇治若郎子うじのわきいらつ(応神皇子)の師とされる:実際は6ct以後の人、
[難波津に咲くやこの花冬ごもり今は春べと咲くやこの花](古今集仮名序入)
(仁徳天皇即位の際その治世の繁栄を願って詠まれた歌とされている)
和珥部君手(わにべのきみて) → 君手(きみて・和珥部臣おみ、壬申乱活躍) G 1 6 2 4
和忍(わにん・成川) → 国男(くにお・成川なるかわ、医者/国学) E 1 7 4 0
- 5355 和年(わねん・半井なからい/松阪、名;松宣)?-? 江前期京の俳人:野々口立圃(うらうほ)[1595-1669]門、

「東海道発句」著、1676西鶴「古今誹諧手鑑」入、
[川の瀬か一夜にかはる月の御名みな] (手鑑)、
[和年(；号)の通称]長兵衛

- 和之輔(わのすけ・莊司) → 正暢(まさのぶ・莊司しょうじ、国学者) Q 4 0 2 2
和八郎(わはちろう・鈴木) → 寿来(じゅらい・宝田たからだ、歌舞伎作者) J 2 1 0 9
佗殿(わびどの) → 秋麿(あきまろ、俳人/国学者) D 1 0 9 1
和夫(わふ・福田) → 和夫(にぎお・福田ふくだ、国学/神職) H 3 3 3 3
5356 和風(わふう) ? - ? 俳人:1716沾徳点「豆腐百韻」参
和風(わふう・佐久間) → 立斎(りつさい・佐久間さくま、兵学者) B 4 9 8 3
和風(わふう・京極) → 高或(たかもち・京極、藩主/俳人) N 2 6 3 6
和風軒(わふうけん) → 賀子(がし・斎藤、俳人) C 1 5 0 7
和風亭(わふうてい) → 川柳(6世せんりゅう、5世男/川柳作者) 2 4 4 4
和風堂(わふうどう) → 鎮栄(つねはる・村瀬むらせ、陪臣/国学/歌) G 2 9 5 9
和布麿(わふまろ・竹中) → 和布麿(にぎまろ・竹中たけなか、藩士/国学者) H 3 3 1 3
和文(わぶん・栗山) → 文行(ふみゆき・栗山くりやま、国学/歌人) I 3 8 1 8
倭文子(わぶんし→しづこ・油谷) → 倭文子(しづこ・油谷/弓屋/油屋ゆや、歌人) 2 1 2 5
倭文舎(わぶんしゃ)すべて → 倭文舎(しずのや)
倭文纏居(わぶんてんきよ→しずのまとい) → 面堂安久楽(めんどうあぐら、職人/狂歌師) 4 3 4 8
倭文麿(わぶんまろ・吉岡) → 倭文麿(しずまろ・吉岡よしおあか/高橋、和漢学/神職/政治) a 2 1 9 6
5357 和平(わへい) ? - ? 俳人:1691北枝「卯辰集」入、
[春の野に袂も袖も土筆哉] (卯辰集;一73)
和平(わへい・原) → 栄治(えいじ・原、講釈師) B 1 3 4 6
和平(わへい・不破) → 浚明(ふかあきら・不破ふわ、藩士/儒者) H 3 8 5 1
和平(わへい・岡見) → 知康(ともやす・岡見、藩士/国学/農政) Q 3 1 7 3
和平(わへい・長野) → 芳斎(ほうさい・長野/月形、藩士/儒者) 3 9 8 4
和平(わへい・荒井) → 貫名(ぬきな・荒井あらい、歌人/書) 3 4 1 3
和平(わへい・菊田) → 和平(かずひら・菊田まきた/小笠原、農家/国学/神職) U 1 5 4 8
和平(わへい・永幡) → 利通(としみち・永幡ながはた/尾崎、国学者) V 3 1 9 5
和兵衛(わへえ・飯田) → 子尹(しいん・飯田いいだ、俳人) L 2 1 0 1
和兵衛(わへえ・前波) → 正因(まさより・前波まえなみ、藩士) I 4 0 8 2
和甫(わほ/わすけ・服部) → 大方(たいほう・服部/沢、藩士/儒者) C 2 6 2 0
5358 和彭(わほう・別号;五分亭)?- ? 江中期美濃の俳人:雑俳点者、
1755「たま椿」編/55「倭風俗」著/58「倭万歳」編、「友千鳥」著、
和豊(わほう・奥村) → 蒙窩(もうか・奥村おくむら、藩士/儒家) 4 4 4 6
5370 和睦(わぼく) ? - ? 江中期備後の俳人、1768蝶夢「かちたゝき」入
5359 和甫(わほ;道号・斉忍せいにん;法諱)?-? 室町期近江臨濟僧;永源寺の靈仲禅英(1410没)門、
靈仲の法嗣、近江曹源寺を開山、「円応禅師紀年録」編
倭麻呂(わまろ・百濟) → 倭麻呂(和麻呂やまとまろ・百濟君、廷臣/詩) E 4 5 2 0
和民(わみん・松山) → 道善(どうぜん・松山まつやま、医者/海防) G 3 1 2 4
和明(わめい・前田) → 和明(かずあき・前田まえだ、藩士) M 1 5 0 4
和女鬼堂(わめきどう) → 猿左(えんさ・戸谷とや、俳人) B 1 3 7 4
和訳太郎(わやくたろう) → 秋成(あきなり・上田、国学/歌/読本) 1 0 0 9
和雄(わゆう・香取) → 和雄(かずお・香取かとり、神職/文筆家) M 1 5 1 4
和雄(わゆう→にぎお・市岡) → 和雄(にぎお・市岡、儒者/歌人) 3 3 1 3
和雄(わゆう・早川) → 丈石(じょうせき・早川はやかわ、俳人) T 2 2 8 6
5360 和葉(わよう・松暁林) ? - ? 江戸中期江戸の俳人:調和門、
1720(享保5)「是迄これまで草」編(；調和の妻妙鑑尼の発句入)
和用(わよう・河上/斎藤) → 琴而(きんじ・斎藤/河上、商家/俳人) H 1 6 9 4
和羅(わら・越智) → 通輔(みちすけ・越智おち、藩士/歌人) I 4 1 3 1
5361 和来亭(わらいてい) ? - ? 江後期尾張海東郡佐屋宿の雑俳点者、

1850(嘉永3)「かゝ美しく初篇」編

- 5362 **和楽**(わらく・加藤かとう) 1740 - ? 1824存 尾張春日井郡瀬戸村の神道家、清兵衛の父、
「神の道しるべ」著
- 和楽(わらく・草間) → 直方(なおかた・草間、両替商/経済研究) 3 2 9 2
和楽(わらく・横井) → 久時(ひさとき・横井よこい、藩士/歌人) M 3 7 3 1
和楽園(わらくえん) → 立志(4世りゅうし・浅見、俳人) E 4 9 3 8
和楽園(わらくえん) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7
和楽堂(わらくどう) → 貴光(たかみつ・堀ほり、藩士/歌人) N 2 6 3 1
藁蔭舎(わらびさしのや) → 高蔭(たかかげ・三井、商家/国学/歌人) C 2 6 5 9
- 5366 **童部友竹**(笑陪-わらべのともたけ、山本やまもと久雪)?-? 江戸四谷坂下住、御坊主衆/狂歌作者;
1785「徳和歌後万載集」2首/87「狂歌才蔵集」入、
[とけどけとつもる思ひを今宵しもいはまの雪のふるへ声なり](後万載;恋516寄雪恋)、
(とけ・つもる・しも・岩間・ふるえは雪の縁語/とけどけ・つもる思ひ・言はまほしは恋)
藁屋(わらや) → 曙覧(あけみ・橘、国学/歌人) 1 0 1 4
- 5363 **童木**(わらわぎ、治部丞茨田まだ重頼女)?-? 平安中期の歌人、
藤原隆経[1009?-72]と恋の贈答:後拾遺集;恋684、
[むばたまの夜半よはのけしきはさもあらばあれ人の心のかゝらましかば](後拾;返歌)、
(新編国歌大観の末句;春日ともがな)、
(隆経の贈歌;いかにせんあなあやにくの春の日や夜半のけしきのかゝらましかば)
- 5364 **和流**(わりゅう・不破ふわ) ? - ? 俳人:几圭の旧知、几圭25周忌歌仙;杜口・几董と、
1772几董「其雪影」/82蕪村「花鳥篇」入;[早鮒(はやずし)の昼にならぬや初ざくら]
- 和良(わりょう・鈴木) → 和良(かざよし・鈴木) T 1 5 2 2
和亮(わりょう→わすけ・梅沢) → 敬典(たかのり・梅沢うめざわ、書家) M 2 6 8 1
悪口にく丸(わるくちのにくまる) → 悪口にく丸(あっこうのにくまる) G 1 0 2 6
和廉(われん・西村) → 壺岳(こがく・西村にしむら、文筆家) L 1 9 9 0
湾翁(わんおう・勝間田) → 盛稔(もりとし・勝間田かつまた、藩士/歌人) F 4 4 9 5
椀久(わんきゅう) → 久右衛門(きゅうえもん・椀屋わんや、豪商/豪遊) M 1 6 2 7
縮斎(わんさい) → 立志(7世りゅうし、俳人) E 4 9 4 7